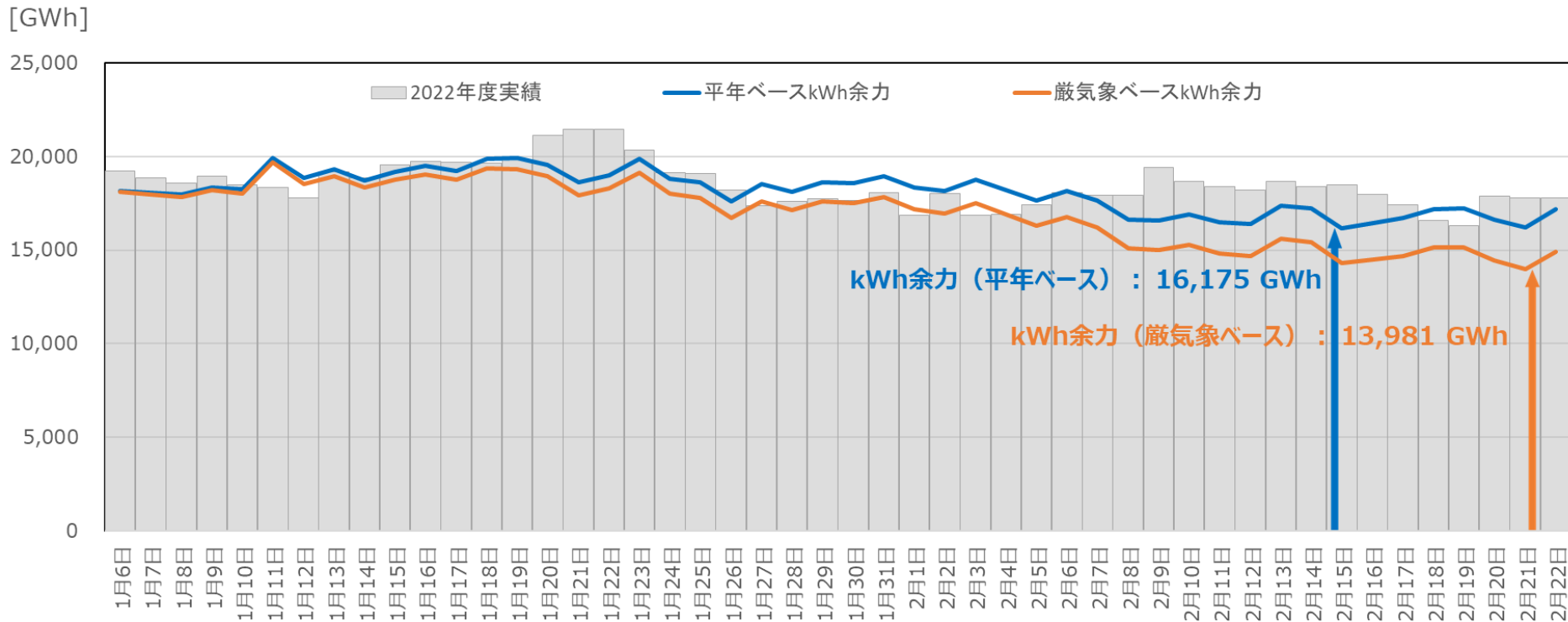


kWhモニタリング（対象期間:1/6～2/22）の結果

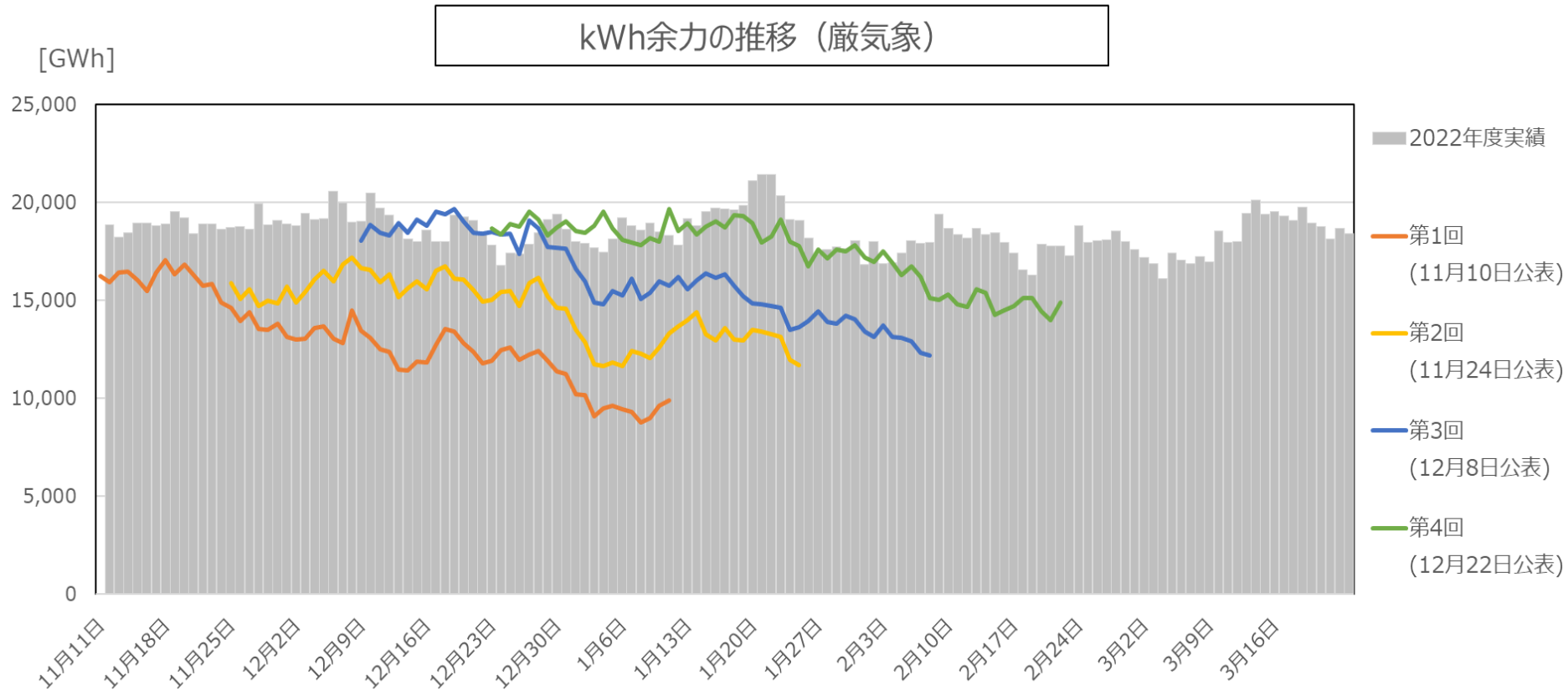
- 今後、平年並で需要が推移すると、kWh余力は2月15日に**16,175GWh**となる見込み。これは、対象期間の平均電力消費量の**約6日分**に相当。
- 厳気象ベースで需要が推移した場合kWh余力は、2月21日に**13,981GWh**となる見込み。これは、対象期間の平均電力消費量の**約5日分**に相当。
- 現時点で燃料在庫の観点からはひっ迫の恐れはないが、需要の増加や、原発・石炭発電等のベースロード電源の計画外停止により電源Ⅰ、Ⅱの燃料消費が増加する等、状況が変化する可能性があり、今後も注視していく。

※ 仮に100万kWの電源停止が60日継続すると、60日後に1,440GWhのkWh余力を押し下げることになる。



kWhモニタリングの結果（これまでの結果との比較）

- 前回（第3回）のkWh余力（厳気象ベース）の推移と比較すると、気象予報を踏まえた直近2週間の需要想定が厳気象ベースの需要想定を下回ったこと等の影響で、1月上旬の余力が増加。1月中旬以降は概ね同じ傾向。

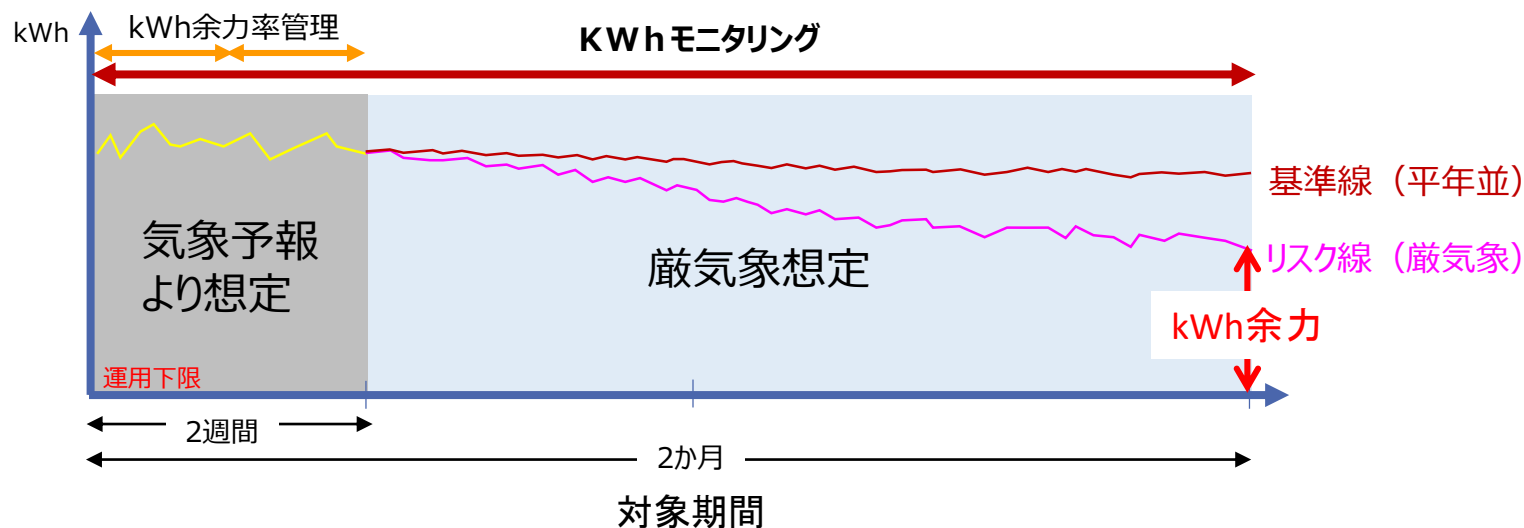


注：上記kWh余力の推移のうち、始めの2週間は気象予報を基にした需要を用いて算定したものであり、厳気象を想定した推移ではない(4スライド参照)

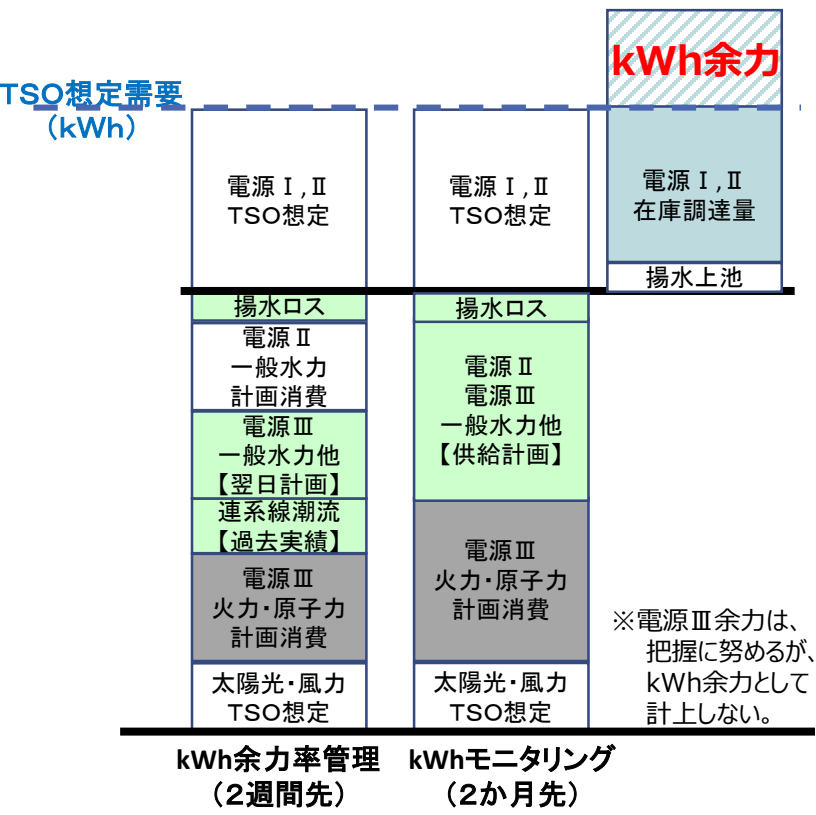
参考

- kWhモニタリングは2か月先の見通しとして**燃料に基づくkWh供給力**（石油・LNGを中心とした燃料在庫・調達量を電力量に換算したもの）**を事業者から情報収集**。これを用いて需要の変動に応じたkWh余力を算定公表するもの。
- 特に厳気象を想定したリスクシナリオを踏まえた見通しを示すことで**発電事業者や小売電気事業者などに適正な供給力（kWh）確保や余力の管理**を促すことを目的としている。
- なお、気象予報など一定の精度で想定が可能な2週間先については、kWh余力率管理として公表。

kWh余力率管理とKWhモニタリングにおける日別の余力推移（イメージ）



- kWh余力率管理及びkWhモニタリングは、①TSOの想定需要から、②電源Ⅲ・再エネなど調整電源以外の電源について発電計画値を控除し、③残余需要に対して調整電源の燃料消費を見込み、④発電可能な発電電力量（kWh余力）を算定。
- kWh余力率管理及びkWhモニタリングともに、同一の燃料在庫を用いてkWh余力を算定してる。ただし、kWhモニタリングでは燃料在庫調達量は全て発電可能としてkWh余力を算定しているのに対し、kWh余力率管理は発電設備能力を考慮し増出力が可能な範囲の燃料在庫調達量をkWh余力として算定している。



B G
 電源Ⅰ・Ⅱ 燃料調達・在庫
 入力ファイル名:kWh情報入力表(調整電源)

一般送配電事業者
 TSO想定需要
 電源Ⅰ・Ⅱ 一般水力(短期のみ)
 太陽光・風力
 入力ファイル名:kWh情報入力表(調整電源)

広域機関
 電源ⅠⅡⅢ一般水力(短期はⅢのみ)
 電源Ⅲその他(バイオマスなど)
 連系線潮流(短期のみ)
 揚水ロス

発電事業者(電源Ⅲ)
 電源Ⅲ 火力・原子力
 入力ファイル名:kWh情報入力表(電源Ⅲ)

kWh余力

※長期では、再エネ、一般水力は供給計画などの月間の計画を日数割で単純配分

(参考) 用語の説明等

<用語の説明>

kWh余力: 対象日の燃料在庫で発電できる電力量。kWh余力の算定に用いる燃料在庫は、各事業者が運用下限(船の遅延などの適切なリスクを考慮)を控除したもの。北海道から九州までの合計値から算定。

基準線(平年並): 平年並(過去30年の平均気温)の想定需要に基づくkWh余力の推移。

リスク線(厳気象): 厳気象(エリア毎に過去10年間で月平均が最も低かった気温)の想定需要に基づくkWh余力の推移。

厳気象想定に用いた気温の平年差

		北海道	東北	東京	中部	北陸	関西	中国	四国	九州
11月	厳気象年度	2016	2016	2016	2017	2017	2017	2013	2017	2013
	平年差(月間平均)	-2.8	-1.1	-0.7	-0.7	-0.7	-1.0	-0.6	-0.9	-0.6
12月	厳気象年度	2017	2014	2014	2014	2014	2014	2014	2017	2017
	平年差(月間平均)	-0.9	-1.7	-0.9	-1.6	-2.2	-1.8	-2.0	-1.6	-1.8
1月	厳気象年度	2022	2020	2017	2017	2017	2017	2017	2017	2017
	平年差(月間平均)	-1.3	-0.7	-0.3	-0.7	-0.9	-1.0	-0.9	-0.9	-0.9
2月	厳気象年度	2017	2017	2021	2021	2017	2017	2021	2017	2021
	平年差(月間平均)	-1.0	-1.1	-0.8	-1.0	-1.2	-1.0	-1.4	-1.3	-1.5
3月	厳気象年度	2013	2016	2016	2016	2016	2016	2016	2016	2016
	平年差(月間平均)	-0.2	0.2	-0.2	-0.3	0.1	-0.2	-0.3	-0.3	-0.4